

2020年10月～2021年3月の分娩予約数が、地方で37%減、都市部で24%減の影響を考える
— 迫り来る人口大減少社会に備えるには —

開倫塾
塾長 林明夫

Q：分娩(ぶんべん)予約数が大分減っているようですね。

A：(1)日本産科婦人科学会(日産婦)は、12月12日に、2020年10月～2021年3月までの分娩予約者数と前年同期の実際の分娩数を較べた結果、地方では約37%減少、都市部では約24%減少していたとする中間調査結果を発表。担当者は、「減少率は実態より強調して結果が出ている」としているが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあるとみて、分析を進める。(以上2020年12月12日、毎日新聞)

(2)年間2500件以上のお産を扱う愛知病院(埼玉県川越市)。妊娠の確認などに訪れる初診患者は、20年4月～11月に前年同期比でおよそ5%減り、21年1月～2月に出産予定の人は20年比で2割減った。ほとんど経験のない落ち込みといい、「新型コロナで妊娠を控えているのではないか」とみている。(2020年12月25日、日本経済新聞)

(3)以上毎日新聞と日本経済新聞の2つの記事をご紹介させていただいたが、2020年武漢発新型コロナウイルス感染拡大の後世への最も大きな影響は、出生者数の大幅減少かもしれません。

Q：学習塾・予備校・私立学校への影響はどうでしょうか。

A：(1)「どうでしょうか」どころではありません。

(2)皆様はどうお考えでしょうか。私は、従来の人口の大幅減に加えて、2021年から出生数が地方で3割以上、都市部で2割以上減少し続けたら、10年～15年後には学習塾・予備校・私立学校の大半は成り立たないのではないかとすら推測します。

Q：ではどうしたらよいでしょうか。

A：(1)まずは、冷静に「人口動態」の調査・研究を推し進める。いつごろ、どのような状況になるかを各地域ごとに冷静に調査・研究することが第1。

(2)その上で、「ではどうしたらよいか」を冷静に考える。「ではどうしたらよいか」は、自らの企業、組織としてどうしたらよいかを考えると同時に、学習塾・予備校・私立学校など「業界」としてどうしたらよいかを考える。さらには、国や都道府県・市町村などの自治体としてどうしたらよいかを考える。

(3)自らの企業として、また、業界団体として、さらには国や自治体として調査・研究し、考え、議論し、方向が定まったら一直線に行動に移す以外にありません。

(4)人口問題は、「大津波」と同じです。「大津波」が来ることがわかったら、その瞬間に自分

と家族、友人、知人、仲間、地域の人々の生命・財産を守るための行動を優先順位を明確に決めた上でスタートしなければなりません。自らの学習塾・予備校・私立学校が対象とする年齢の人口が大幅に減少するまであと何年かを見極め、やるべきことが決まったらすべて行う以外にありません。

Q：そのポイントは何ですか。

A：(1)「(労働)生産性」を決定する「分数」の「分母」である「インプット、投入量」を、できるだけ合理化させる。同時並行して、「分子」である「アウトプット、産出量」を、極大化させる以外に「手」はありません。

(2)対象人口が、従来からの人口減に加えて 2 割～ 3 割以上減るのであれば、対象者(客層)を上下に拡大する、教育方法を変えて新しいやり方を取り入れる以外にありません。

(3)①高校入試が中心の学習塾は、大学進学や小学校低学年の放課後子ども教室などにも進出。

②生徒減で悩む私立学校は、社会人を対象とするコミュニティカレッジで生涯教育に進出。

③予備校は外国出身の人々のためのやさしい日本語と職業訓練に進出。

*今、行っていないことで社会の課題解決に直結する「教育サービス」は「山ほど」あります。今から準備すれば、コロナ禍による出生数減が自塾を直撃するまでに、間に合います。皆で力を合わせ、万全の準備をいたしましょう。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も先生方がお読みになれば必ずお役に立つ本を何冊かご紹介いたします。

(1)1冊目は、潜伏キリシタン図譜プロジェクト実行委員会編著「潜伏キリシタン図譜、Hidden Kirishitan of Japan Illustrated」かまくら書房 2020年12月25日刊です。聖心女子大学学長で上智大学元理事長 高祖敏明先生が中心となり、5年越しで刊行に至った800ページに及ぶ日本語と英語の完全対訳版で1000部の限定出版。日本のキリスト教史のみならず、精神文化史を知る上で貴重な1冊。素晴らしい内容です。是非、じっくり腰を落ち着けてご熟読を。

(2)2冊目は、細尾萌子・夏目達也・大場淳編著「フランスのバカロレアにみる論述型大学入試に向けた思考力・表現力の育成」ミネルヴァ書房 2020年12月10日刊です。フランスでは、高校3年生の最後に全国一斉に実施されるバカロレア試験という大学入学資格試験が、論述試験を中心に高校で履修したほぼ全教科で行われ、思考力・表現力を育む教育が特別の高校だけではなく、進学校でも困難校でも「ふつうのこと」として営まれています。

(3)3冊目は、メアリアン・ウルフ著「デジタルで読む脳×紙の本で読む脳：「深い読み」ができるバイリテラシー脳を育てる」インターシフト 2020年2月20日刊です。スマホ中毒により「読書脳」が失われる前に、「紙の本で読む脳」を育てる。

(4)4冊目は、アンデシュ・ハンセン著「スマホ脳」新潮新書、新潮社 2020年11月20日刊です。スマホの脳に与える影響の大きさを本書で知ることは、すべて教育者、とりわけ難関校受験の進学塾の先生方には不可欠と考えます。

- (5)5 冊目は、佐伯啓思著「^{さえきけいし}経済学の思考法—稀少性の経済から過剰性の経済へ—」講談社学術文庫、講談社 2020 年 11 月 10 日刊です。コロナ禍で現代世界の資本主義・民主主義はどうあるべきか。同著「近代の虚妄—現代文明論序説—」東洋経済新報社 2020 年 10 月 20 日刊とともにお読みになり、ご一緒に考えましょう。
- (6)6 冊目は、フアン・リンス著「民主体制の崩壊—危機・崩壊・再均衡—」岩波文庫、岩波書店 2020 年 11 月 13 日刊です。
- (7)7 冊目は、ハンナ・アーレント著「政治とは何か」岩波書店 2004 年 4 月 27 日刊です。
- (8)8 冊目は、齋藤純一著「政治と複数性—民主的な公共性にむけて」岩波現代文庫、岩波書店 2020 年 11 月 13 日刊です。
- (9)9 冊目は、山岡隆一・齋藤純一著「公共哲学」(放送大学大学院教材 文化科学研究科 社会経営科学プログラム)放送大学振興会 2017 年 3 月 20 日刊です。本書とともに(6)(7)(8)をお読みになると、「公共」とは何かの基礎が学べます。
- (10)10 冊目は、松永澄夫著「或る青春」東信堂 2020 年 12 月 25 日刊です。現代哲学の名著、古典である「価値・意味・秩序」東信堂 2014 年 4 月 25 日刊の著者、松永澄夫先生の青春論。村上春樹著「ノルウェーの森」を読んでいるような気分になった哲学書。是非ご一読ください。